

Special Needs Education Research Center

## SNERC通信

(第32号－2014年3月)

国立大学法人 筑波大学  
 特別支援教育研究センター  
 センター長：四日市 章  
 〒112-0012 東京都文京区大塚 3-29-1  
 TEL&FAX：03-3942-6923  
<http://www.human.tsukuba.ac.jp/snerc/>  
 mail：snerc@human.tsukuba.ac.jp

## 「5人に1人の子どもが支援を必要としている時代の教育は…？」

筑波大学特別支援教育研究センター 長崎 勤

最新の調査では、6.5%の比率で発達障害の子どもがいます。そこに従来の障害児の比率約3%を加えると、約10%の子どもに何らかの障害があり、支援が必要です。そして、私自身の巡回相談などの経験では、クラスに少なくとも10%ぐらいの割合で、「気になる子ども」がいます。主に、社会・文化・経済的な環境の問題による子どもたちで、虐待、不登校、非行、問題行動などを示す子どもたちです。多いクラスでは、20%以上の場合もありました。背景としては、近年の家庭の経済的な格差の拡大、家庭状況の複雑さ、子育ての孤立化や子育て環境の大きな変化などがある



でしょう。つまり何らかの障害による支援が必要な子どもが10%、社会・文化・経済的な環境の問題から支援の必要な子どもが少なくとも10%、これらを合わせると約20%、すなわち、5人に1人の子どもが何らかの支援を必要としているということになります。子どもをランダムに30人集めると、そこには6人の子どもが何らかの支援を必要としているのです。

このような状況は、「支援の必要な子どもを見なければいけない、いやその必要はない」といった議論は吹き飛びます。「いい、わるい」ではなく、とにかく、目の前に支援の必要な子どもが5人に1人はいる、というのが今の教室の現実です。教員は、「私はそういう専門でないからできません」とは言えない時代になっているのです。

このような時代、状況の中で、教育は今後どういう方向を目指すのでしょうか。イタリアはインクルーシブ教育を試行錯誤で先導してきた国の一つですが、2年前から教員養成の方法を大幅に変えたそうです。それまでは4年間で教員養成をしていたのですが、それに1年間分の特別支援教育の養成課程を必修として加え、計5年間を通常の教員養成課程としたそうです。つまり、教員免許を取ろうとする学生は、全員5年間の内、1年間分の特別支援教育の科目を履修しなくてはならない。5分の1、すなわち20%です。先ほど述べた、何らかの支援を必要としている子どもの割合、20%と同じ数字ですね。支援の必要な子どもが20%なのだから、教育課程も20%が支援の必要な子どものことを！現実に適応した合理的な教員養成制度といえるのではないのでしょうか。欧州は大まかには、この様な方向に向かっているとのことでした。さあ、日本では今後どのような方向を目指すのでしょうか・・・？

## ■現職教員研修生 成果報告会・修了式

3月6日（木）、5名の研修生の成果報告会および修了式が行われました。それぞれの表情からは、研修での学びの喜び、報告書作成の苦しみや達成感などが感じられました。

1年間、研修にご協力いただきました各学校の先生方に、深謝申し上げます。



### 研修タイトル一覧

氏名（所属校）とタイトル	指導教員
田野 大介（北海道札幌養護学校） 知的障害特別支援学校における 個別指導と集団指導に関連性を持たせた授業の在り方について	藤原 義博
清水 一美（静岡県立袋井特別支援学校東遠分教室） 子どもが「できた！」「やった！」という 達成感を感じることでできる授業づくり	藤原 義博
小林 茜（埼玉県立特別支援学校大宮ろう学園） 発達段階に応じた聴覚活用と言語獲得の支援のあり方について ～聴覚障害児童を対象とした指導事例をもとに～	四日市 章
佐久間智大（千葉県立袖ヶ浦特別支援学校） 特別支援学校（肢体不自由）における重複障害児童の実態把握について ～「見る力」に焦点をあてて～	安藤 隆男
小倉 美紀（千葉県立桜が丘特別支援学校） 通常の学級に在籍する肢体不自由児の 学習上の課題に対する教職員の気づきとその対応	安藤 隆男

★研修報告書の貸出を行っております。ご希望の方はセンターまでお問い合わせください。

**指導教員からのメッセージ****障害科学域 安藤隆男**

研修生の皆様、修了おめでとうございます。わずか1年でありましたが、これまで体験し得ないひとときであったのではないのでしょうか。おそらく教職生活を通じてもっとも記憶に残る一コマになるでしょうね。現場復帰後しばらくは、リハビリ期間をはさみ気負わずにお過ごし下さい。先生方のご健康とご活躍を祈念しております。

**■現職教員研修生日記****千葉県立桜が丘特別支援学校****小倉 美紀**

筑波大学特別支援教育研究センターの先生方に温かく支えていただいた1年間の現職教員研修。附属特別支援学校の見学や演習、センターの先生方からの講義、大学での講義の聴講など、たくさんの研修をさせていただきました。また、自身のテーマで研修を進めるにあたり、桐が丘特別支援学校の先生方にも大変お世話になりました。これまでの教員生活からすると、どれを取っても非日常的な毎日であり、現場の中では経験することができない、貴重な研修の機会をいただいたことに感謝しております。

そして、テーマに沿って研修を進める中で、共に悩み、励まし合い、喜び合った、各県からの研修生の存在はとて大きく、かけがえのない生涯の仲間達を得ることになりました。

1年前は自分の目の前のことに精一杯な状態でスタートした研修生活でしたが、多くの方に支えていただき過ごした日々により、特別支援教育だけでなく、教育者として、人としてわずかではありますが、視野を広くすることができたように思います。この1年間で学んだことを学校の子も達へ広げていきたいと思えます。1年間本当にありがとうございました。今後ともよろしく願いいたします。

**■研修報告**

今年度は文部科学省委託事業経費を運用し、ICT および教材・教具関連の先進的な取組を行っている学校やセミナーに、センター教員および各学校の先生が研修に行きました。

5部門会議では、短時間ながら研修報告、情報交換を行いました。

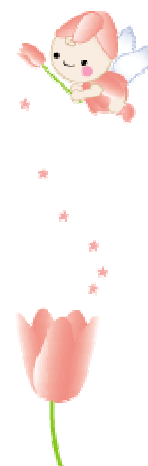
そこでは、ICT を使うこと自体が目的ではなく、学習内容の理解や子どものニーズに応えるために用いること、ICT の利点（例：画像を即座に提示して手順の確認や振り返りができる）を知り、それを生かすことが重要であることが確認されました。また、ICT と従来の教材・教具を組み合わせるなどして、アナログとデジタルをバランスよく用いることが大切で、バランスのとれた活用のためには、ICT 機器に慣れていない教員の率直な意見や感じ方をうまく取りあげることも有効ではないか、といった意見が交わされました。



## 主な研修先

- ・ ATAC カンファレンス 2013 京都
- ・ タブレット端末活用セミナー2014
- ・ 徳島県立盲学校 実践研究発表会
- ・ 熊本県高森町小中学校 公開授業研究会
- ・ 福岡教育大学附属久留米小学校 研究発表会
- ・ 香川大学教育学部附属特別支援学校 教育研究発表会
- ・ 奈良教育大学附属養護学校 中間報告会
- ・ 京都教育大学附属桃山小学校 教育実践研究発表会
- ・ 愛知県立みあい養護学校

内容の詳細は、センター教員、5部門会議メンバーにお尋ねください。



## ■セミナーのご案内

現在、附属特別支援学校5校と連携しながら取り組んでいる「教材・指導法のデータベース構築」の研究に関連した、シリーズ第二弾のセミナーです。すでに学外の方から多くの申込みをいただいておりますが、附属学校の先生方にも多数ご参加いただき、議論を深めていければ幸いです。皆様のご参加を、心よりお待ちしております！

附属特別支援学校・特別支援教育研究センター共催セミナー  
シリーズ 特別支援教育の伸展(2)

### 『ICTの活用と特別支援教育』

■日時：平成26年3月22日（土）

■場所：筑波大学文京校舎134教室

■日程：

12:30 受付

13:00 開会挨拶及び趣旨説明

13:15 第一部 講演「ICTの導入と新しい能力観の提案」

坂井 聡（香川大学教育学部教授）

〈休憩〉 14:15 ~14:30

14:30 第二部 講演「児童生徒の主体的な授業参加を促す

ICT等の支援ツールの活用」

藤原 義博（筑波大学人間系教授）

15:30 質疑応答

15:50 閉会挨拶

■申込み・問合せ：センター（担当：宮崎）まで

## ■新着情報

ひらがな読書チャート MNREAD-JK、KABC-II を2台、購入しました。貸出を希望される方は、センターまでご連絡ください。